



ＪＡ兵庫みらい
営農経済部 あぐり創生課
TEL ０７９０－４７－１２８２
FAX ０７９０－４７－１６７４

２０２５．５月号

園芸 【春植えキャベツの防除と加西市キャベツ研究会について】

春植えキャベツ防除作業について

現在は春どりキャベツの収穫が近づいている頃かと思います。より品質の良いキャベツを収穫するために、臨機防除をおこないましょう。ヨトウムシ・アオムシ等害虫防除にグレーシア乳剤、アブラムシ類にはコルト顆粒水和剤を散布してください。また軟腐病・黒斑細菌病の防除にスターナ水和剤を散布し、株腐病・菌核病・根朽病の防除にはアフエットフロアブルを散布してください。

【グ レ ー シ ア 乳 剤】 希釈倍率・・・2000～3000 倍：使用時期・・・収穫 7 日前まで（使用回数：2 回以内）
適用害虫：コナガ、アオムシ、ウワバ類、ヨトウムシ、ハスモンヨトウ、オオタバコガ、アザミウマ類

【コ ル ト 顆 粒 水 和 剤】 希釈倍率・・・3000 倍：使用時期・・・収穫前日まで（使用回数：3 回以内）
適用害虫：アブラムシ類、ネギアザミウマ

【ス タ ー ナ 水 和 剤】 希釈倍率・・・1000 倍：使用時期・・・収穫 7 日前まで（使用回数：3 回以内）
適用病害：軟腐病、黒斑細菌病

【アフエットフロアブル】 希釈倍率・・・2000 倍：使用時期・・・収穫前日まで（使用回数：3 回以内）
適用病害：株腐病、菌核病、根朽病

加西市キャベツ研究会で加工キャベツの栽培に取り組みませんか？

加西市キャベツ研究会では新規会員を募集しています。加西市キャベツ研究会とは、加西市のキャベツ生産者によって組織された生産部会です。カット野菜や飲食店で使用される加工キャベツの生産と出荷・販売に取り組んでいます。

会員様には加工キャベツ栽培暦、肥料農薬注文書、加工用に適した品種のキャベツ苗注文書を配布し、定植機械の貸し出しも行っています。また定期的に圃場を巡回し栽培状況を確認しながら営農指導や加工業者との出荷計画の調整を行います。5月末には栽培講習会も開催いたします。

加西市キャベツ研究会に入会したいという方、加工キャベツについてもっと詳しく知りたいという方は、下記のＪＡ兵庫みらい加西営農生活センター加西市キャベツ研究会担当者までご連絡ください。また、ＪＡ兵庫みらい小野営農生活センター小野キャベツ部会も募集しておりますので、下記の担当者までご連絡ください。

連絡先：加西市キャベツ研究会事務局 担当者：岩佐（080-2458-0260）・佐伯（080-2458-0256）
小野キャベツ部会事務局 担当者：牧野（0794-63-6905）

水 稲

【5月からの田植え準備から定植まで】

本年も田植えの時期になりました。田植えに向けて機械の点検・調整をおこない、事故のないよう気をつけて安全に作業をおこなってください。

苗 の 管 理 自家育苗の場合は、2葉期の頃に太陽シートをはがしましょう。

【ポイント】太陽シートをめくるのは曇りの日や夕方を選んでください。いきなり強光下にさらしたり、10℃以下の低温になると白化症状が発生しやすくなります。緑化後は、自然の光・気温などの環境に徐々に慣らしておいてください。

箱 施 用 剤 大変手軽で防除効果が高い薬剤です。使用時は除草剤と間違えないように注意し、苗についた露を払い落とししてから散布処理してください。散布処理後、苗についた薬剤を払い落とし、軽く散水して薬剤を育苗土表面に落ち着かせてください。



※育苗センター苗を購入される方は、

すでに箱施用剤を散布しております。

ご注意ください。

ルーチンエキスパート箱粒剤

使用時期：播種時（覆土前）～田植当日
使用量：1箱あたり50g
いもち病、紋枯病、イネミズソウムシ、
ニカメイチュウ、ウンカ類、
ツマグロヨコバイ、コブノメイガ、
フタオビコヤガ、イネツトムシ



代 か き 田植え前の代かきは、水田の漏水防止と田面を均平にするという目的があります。また基肥の土壌混和や雑草抑制も兼ねる重要な作業です。

【ポイント】少なめの水でロータリーの回転を落として丁寧におこなうと、田面の均平度合いや、除草剤の効果が高まります。ただし、あまりかきすぎると土中の空気を追い出し、酸欠状態となって根腐れの原因となるので注意してください。

田 植 え なるべく風のない、暖かい晴れた日に、田植えをおこなってください。

【ポイント】植え付け本数(目安)うるち米：2～3本植、坪60株 山田錦：2～3本植、坪50株
植え付け本数が多いと、倒伏したり病虫害の発生原因になります。

余 り 苗 余った苗をは場に放置すると、「いもち病」の発生原因になりますので、補植作業が終わればすぐに処分してください。

水 管 理 水田用除草剤を散布後に、落水やかけ流し、畦畔からの漏水で水田の水が流れ出してしまうと、せっかくの薬剤の効果も低下してしまいます。また、水田で使用する農薬は、水系への安全性も確認されていますが、同時期に広範囲で流出してしまうと、水域の動植物に影響を与える可能性があります。これらを防ぐためにも、農薬が土壌などに落ち着くまでの7日間は、水田の水を外に出さない水管理を徹底しましょう。

・夏野菜の定植時期になってきました。5月に入り、気温が上昇してくると初期の病虫害の発生時期になってきます。

初期の被害が生育遅れにつながるので植え付け後に防除を行いましょう。

・多くの夏野菜は植え付け2～3週間後に追肥を行います。雨が降る前に追肥を散布すると、効果が早く効果的です。

問 い 合 わ せ 先

わたしたちは農業、くらしのパートナー。
元気な農業、元気なくらしを応援します。

加西営農生活センター
TEL0790-47-1286

三木営農生活センター
TEL0794-82-6150

小野営農生活センター
TEL0794-63-6905